

4日に1件の割合で火災が発生

年間84件、4億2,000万円が灰 昭和52年「火災統計」まとまる



【写真・きょうも市内のどこかで…】

昭和52年の富士市火災統計がこのほどまとまりました。市消防本部の調べによれば、市内のどこかで4.35日（104時間17分）に1件の割合で火災が発生し、1件当たり497万6,548円が灰になっており、これは富士市の財産が1分間に795円づつ灰になっていることになります。

また、建物の焼損面積は1年間で5,348平方メートルで、これは日本住宅公団の3DK住宅（約60平方メートル）の約89戸分にあたります。

出火件数では最近5カ年減少をたどり昭和48年の116件にくらべ32件、前年にくらべ1件の減となっています。

出火のトップは

「タバコ」の不始末

出火の原因の88.1％は火気の取扱い不注意や不始末など失火によるもので「タバコ」の投げすて、消し忘れによるものが一番多く全体の13.1％（11件）を占め、喫煙者のマナー防火に対する再認識が望まれています。ついで「こどもの火遊び」10.7

％（9件）「コンロ」の8.3％（7件）の順になっています。

時間別出火では

14時～15時が一番多い

時間別出火件数では、8時から20時までの12時間に56件で全体の66.7％を占め、最も多いのは14時から15時の9件（10.7％）、ついで16時から17時の8件（9.5％）、11時から12時の7件（8.3％）、10時から11時と13時から14時の6件（7.1％）となっています。

曜日別では

火曜日が15件

曜日別では、火曜日が最も多く全体の17.9％（15件）ついで日曜日の

16.7％（14件）でこどもの火遊びについての曜日別出火件数では日曜日が3件となっています。また四季別にみると、冬が最も多く昨年の34件（40％）にくらべ32件（38.1％）と2件減っています。

建物火災は

住宅がトップ

建物火災で一番多いのは「住宅」からの出火24件で建物火災の昨年25件（29.4％）にくらべ28.5％で昨年とほとんど変わっていない。次いで多いのは、「工場、作業所」の9件10.7％です。「住宅」からの出火原因としては、コンロ、ストーブ、風呂、かまど、エントツの過熱によるものが各3件、タバコ、こどもの火遊び、放火が各2件となっています。

地区別火災発生状況は、つぎのとおりです。（昭和52年12月31日現在）

区分 地区別	火災件数（件）							焼損面積		り 災 世 帯	り 災 人 員	損害額 （千円）
	建物 火災	林 野 火災	車 両 火災	船 舶 火災	そ の 他 火災	計	出火率 （％）	建 物 （ ㎡）	林 野 （ a）			
吉原	9		1		1	11	13.1	1,777		13	55	193,091
伝法	7					7	8.3	1,032		4	13	33,006
今泉	10				1	11	13.1	274		12	33	13,754
広見							0					
富士見台							0					
元吉原	5			1		6	7.1	301		4	14	8,563
須津	2		1		1	4	4.8	460		2	8	10,703
吉永	1	1			2	4	4.8	7	1			310
原田	2	1				3	3.6		5			26
浮島							0					
大淵	5				4	9	10.7	356		6	25	25,453
富士駅北	8					8	9.5	652		8	31	35,625
富士駅南	2				1	3	3.6	45		1	6	2,099
田子浦	1	1		1	1	4	4.8			1	1	236
岩松	2		1			3	3.6	73		1	5	3,149
鷹岡	7				2	9	10.7	371		3	11	91,823
東名高速道路			2			2	2.3					192
合計	61	3	5	2	13	84	100.0	5,348	6	55	202	418,030